

国際私法における同性婚に関する日台比較法研究

■社会環境学部 社会環境学科 准教授 片岡 雅世

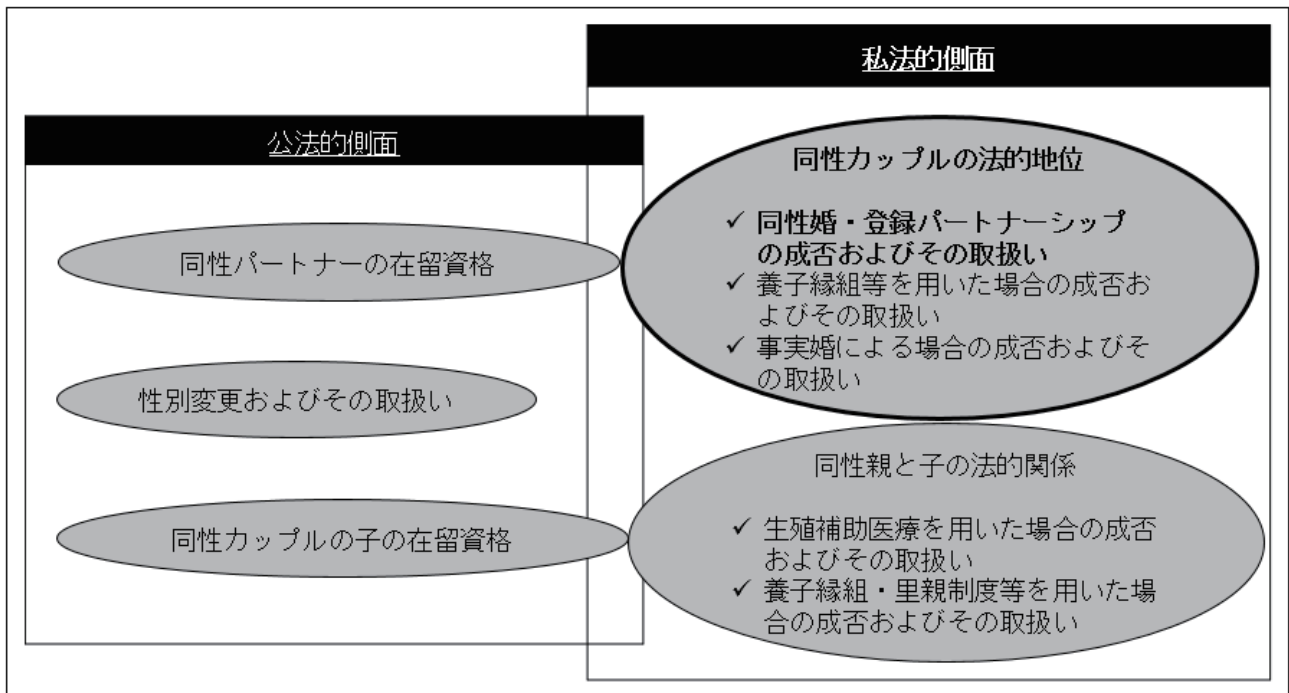
○ 研究分野：国際私法、国際取引法、国際民事手続法

○ キーワード：性的少数者 (LGBTQ+)、同性婚・同性パートナーシップ、準拠法

I 研究概要

近年、「性の多様性」に対する認識に変化がみられる中、我が国においてもLGBTQ+を取り巻く法的諸問題に対して、どのように解決していくべきかが問われている。LGBTQ+を取り巻く法的問題には多様なものが含まれるが(下図参照)、性別変更の取扱いを除けば、これら諸問題すべてに共通する(ベースとなる)のが「同性カップルの法的地位」に関する問題である。

そこで、本研究では、日本および台湾における同性婚等に関する議論(特に抵触法上の議論)状況および実務上の取扱いを明らかにし、同性婚等に関する論点のうち、法性決定問題および公序問題を中心に、その解決策を提案することを目的とする。台湾は、2019年にアジアで初めて同性婚を合法化した地域であり、日本との関係性も深い。これまで同性婚等に関する議論は欧米諸国との比較法研究が中心であったが、本研究では台湾法との比較研究を通じて、アジア地域における同性婚等のあり方に一定の方向性を示す。



【図】 性的少数者 (LGBTQ+) を取り巻く法的諸問題

I 利点特徴

- ・同性婚等に関する各国(特にアジア地域)法状況の整理
- ・台湾(国際私)法との比較研究

I 応用分野

性的少数者 (LGBTQ+) を取り巻く法的諸問題全般(上図参照)



SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS